

いばらきネットモニター「スマートシティ及び顔認証技術」に関するアンケート

1 調査目的

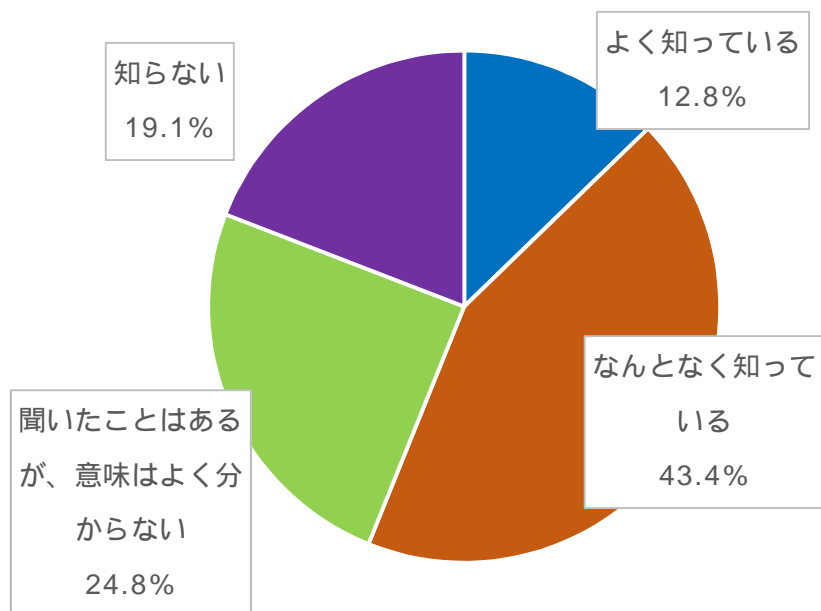
少子高齢化等の社会課題を解決するため、スマートシティの取組を進めているところですが、この中で求められるニーズを把握し、どのような技術やサービスを実装していくか、今後の政策立案に活用します。

2 調査結果の概要

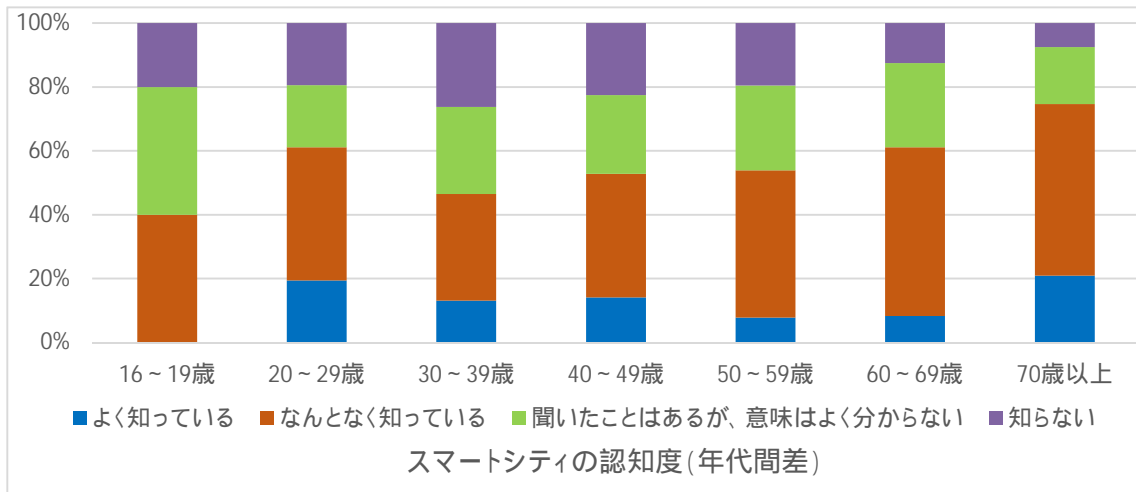
スマートシティに対する意見は肯定的なものが多く、スマートシティ化による利便性の向上を期待する声が多い。
一方で、データ流出やプライバシーに係る懸念が挙げられている。
顔認証については、銀行 ATM や役所での個人認証、子供等の見守り等への活用の期待が高い一方、プライバシー保護やセキュリティへの懸念から、使用の範囲は限定的で広く普及するには時間がかかるのではないかとの意見が多い。

【問1】(スマートシティの認知度)

あなたは、「スマートシティ(1)」という言葉を知っていますか。 (n=549)



「よく知っている」「なんとなく知っている」との回答が約 56%、「聞いたことはあるが意味はよく分からない」「知らない」との回答は約 44%で、おおよそ半数ずつに分かれた。



(1) 「スマートシティ」とは

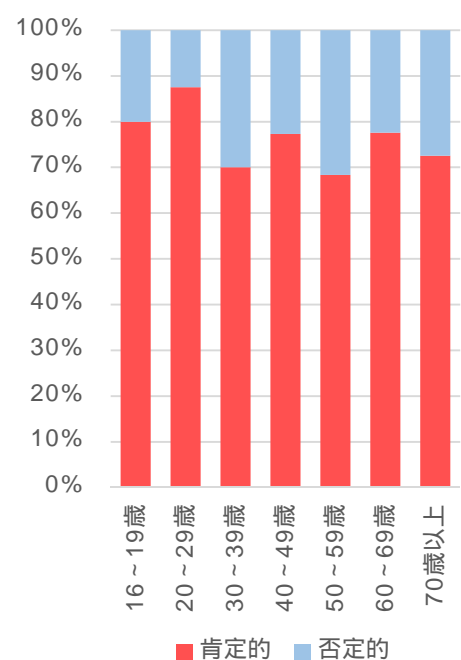
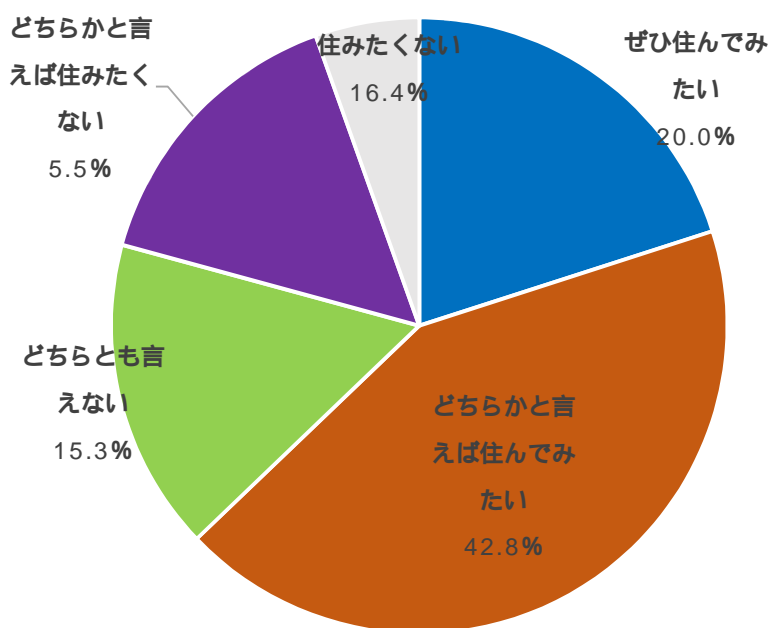
スマートシティとは、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)等の先端技術やデータを活用し、都市や地域のサービスを効率化・高度化することで、社会課題の解決や人々の生活の質を高める未来都市のことです。

例えば、街中にカメラやセンサーを設置して、子供の見守りや渋滞緩和に向けた交通量調査、河川の水位を監視する等の取組が試験的に行われています。

【問2】(スマートシティへの関心)

あなたは、「スマートシティ」に住んでみたいですか。

(n=549)



スマートシティに住んでみたいと回答した方は全体の 62.8%であり、肯定的な意見が多かった。

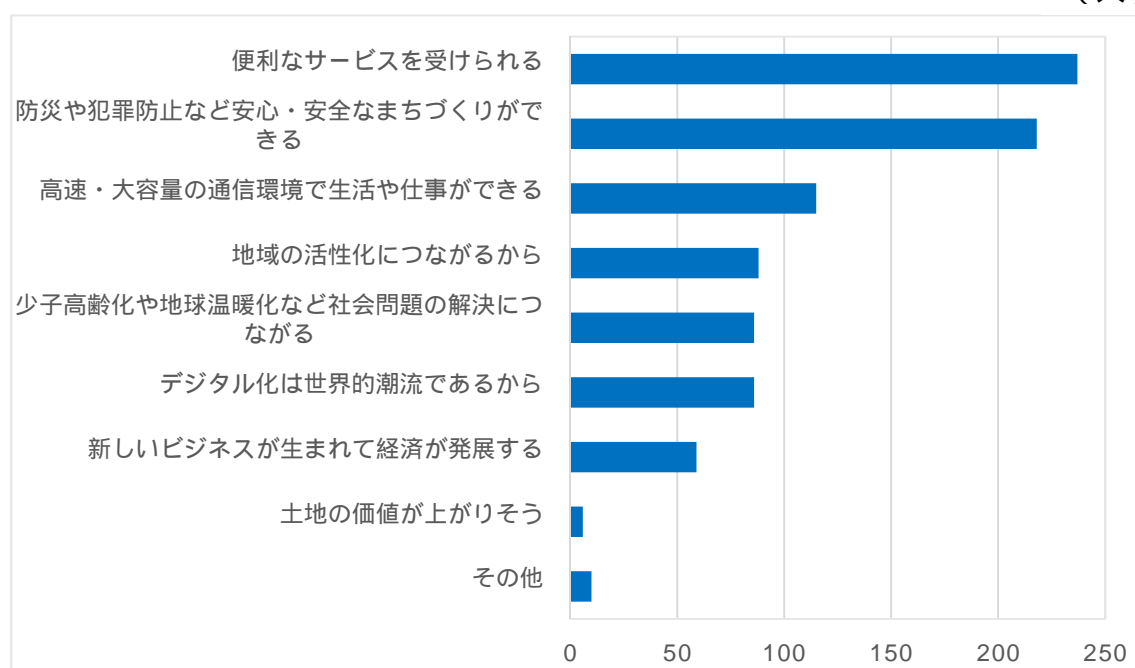
年代別で見ると、比較的 30 代、50 代で他の世代よりも否定的な意見の割合が多かった。

【問3】(スマートシティに住みたい理由)

(問2で「ぜひ住んでみたい」「どちらかと言えば住んでみたい」と回答された方にお伺いします)

スマートシティに住んでみたい理由は何ですか(最大3つまで選択)。(n=345)

(人)



住みたい理由の多くは、「便利なサービス」や「高速大容量通信」等、スマートシティ化による利便性の向上を期待するもの。

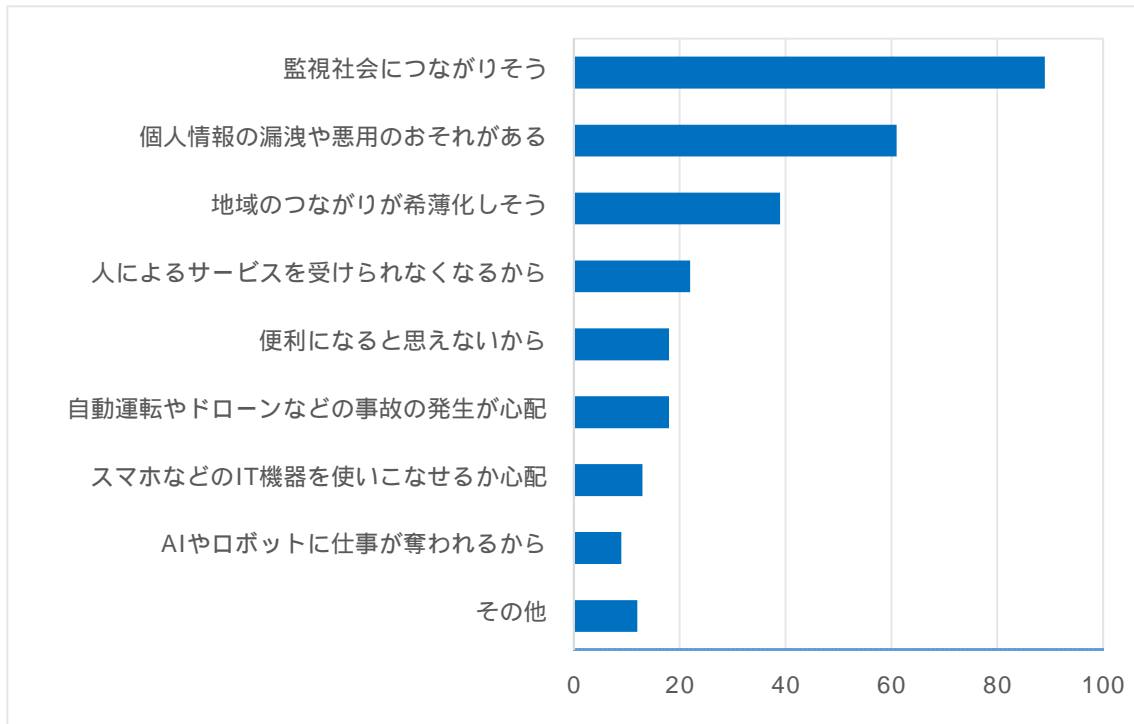
安心・安全なまちづくりに対する希望も高い。

その他の理由として、役所や銀行等の手続きが簡略化されることへの期待や、効率化により、税金や公共料金などの負担が軽減されるのではないかと期待がある。

【問4】(スマートシティに住みたくない理由)

(問2で「どちらかと言えば住みたくない」「住みたくない」と回答された方にお伺いします)

スマートシティに住みたくない理由は何ですか(最大3つまで選択)。(n=114)
(人)



住みたくない理由として、監視社会につながるのではないかと不安や、個人情報の漏洩や悪用の恐れ等、プライバシーに係る懸念が高くあげられた。

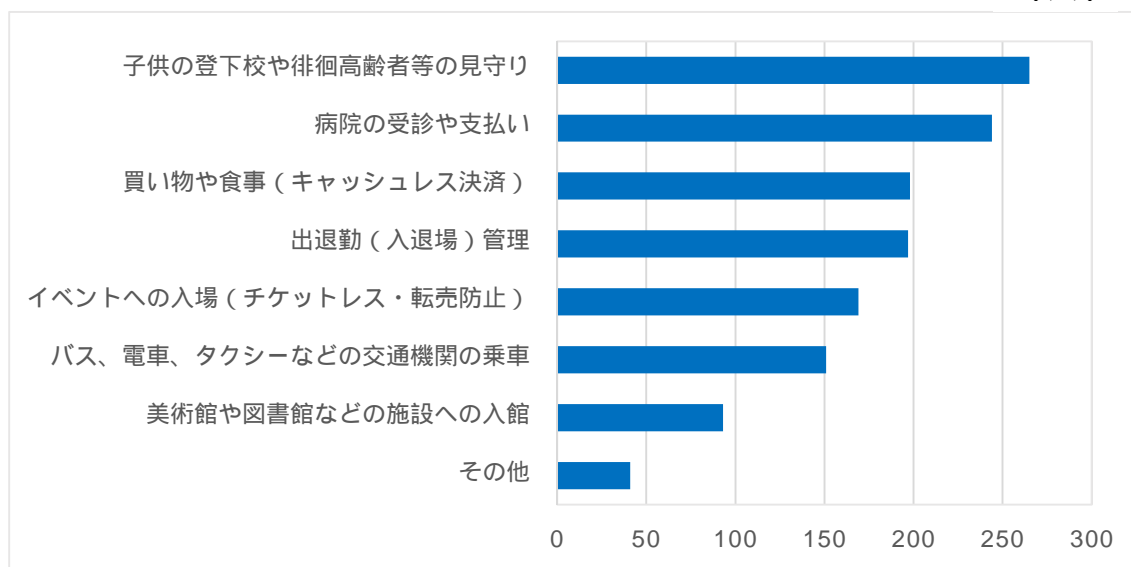
その他の意見としては、サイバー攻撃に対する懸念や、地域のことは人のかかわりがあった方が良かったといった意見、災害等により電気やネットワークが遮断されると何もできないといった懸念の声が聞かれた。

【問5】(顔認証技術への期待)

顔認証技術(2)で何ができると思えば便利だと思いますか(最大3つまで選択)

(n=549)

(人)



顔認証技術の使用により利便性が向上すると思われる場面については、「子供の登下校や徘徊高齢者の見守り」等、安心・安全につながる使用が最も高かった。

次いで、「病院の受診や支払い」、「買い物や食事での決済」等の、受付や決済の場面での使用、「出退勤管理」の場面での利用等、日常的な行動の中で活用を求める要望が高いことが分かった。

「公共交通機関の乗車」や「施設への入館受付」に対する要望は比較的少なかった。

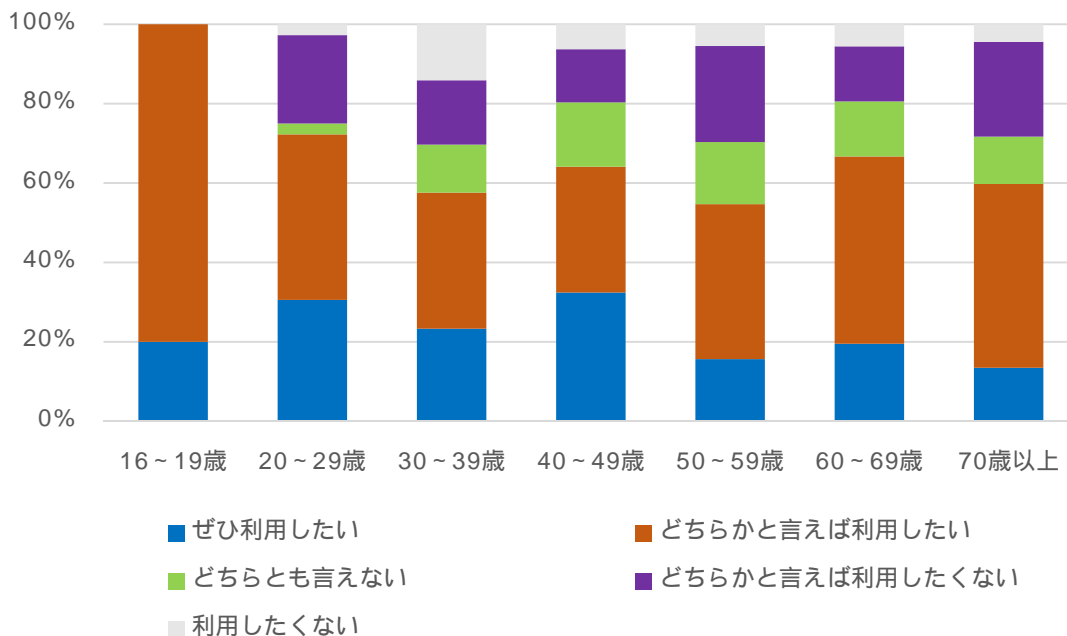
その他として、犯罪者の特定や、密入国等、防犯への活用、銀行やATM、キャッシュカードやクレジットカードでの個人認証への活用、家や車の鍵としての活用などが期待されていた。

(2)「顔認証技術」とは

顔認証技術とは、カメラで人の顔を読み取り、顔の特徴をとらえてコンピューターが個人を識別する生体認証方式のひとつです。スマートフォンのロック解除にも利用されています。

【問6】(顔認証技術に対する受容性)

顔認証技術が導入された場合、利用してみたいと思いますか。



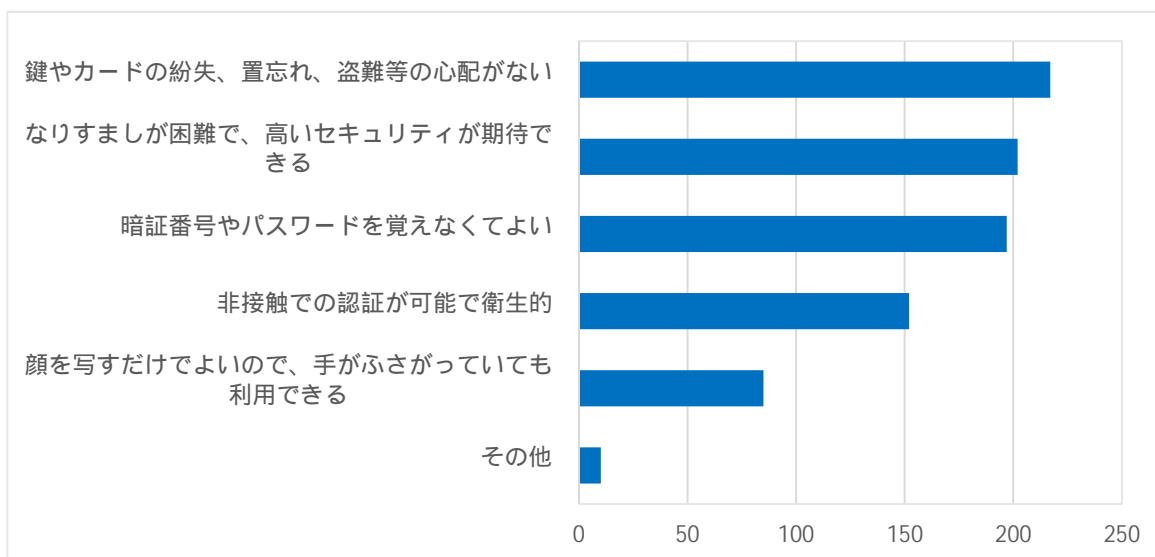
顔認証技術について、全世代で「利用したい」という意見が「利用したくない」という意見を上回った。

30代、50代ではスマートシティの許容性と同様、他の年代に比べて否定的な意見の割合が高かった。

【問7】(顔認証技術を利用してみたい理由)

(問6で「ぜひ利用したい」「どちらかと言えば利用したい」と回答された方にお伺いします)

顔認証技術を利用してみたい理由は何ですか(最大3つまで選択) (n=337) (人)



利用したい理由として、「鍵やカードの紛失や置忘れ、盗難等の心配がない」ことが最も多かった。また、同様に「暗証番号やパスワードの代わりになる」等、利便性の向上を期待するものが多くあげられた。

他方、「セキュリティの向上」や、「非接触による衛生面での期待」も高かった。

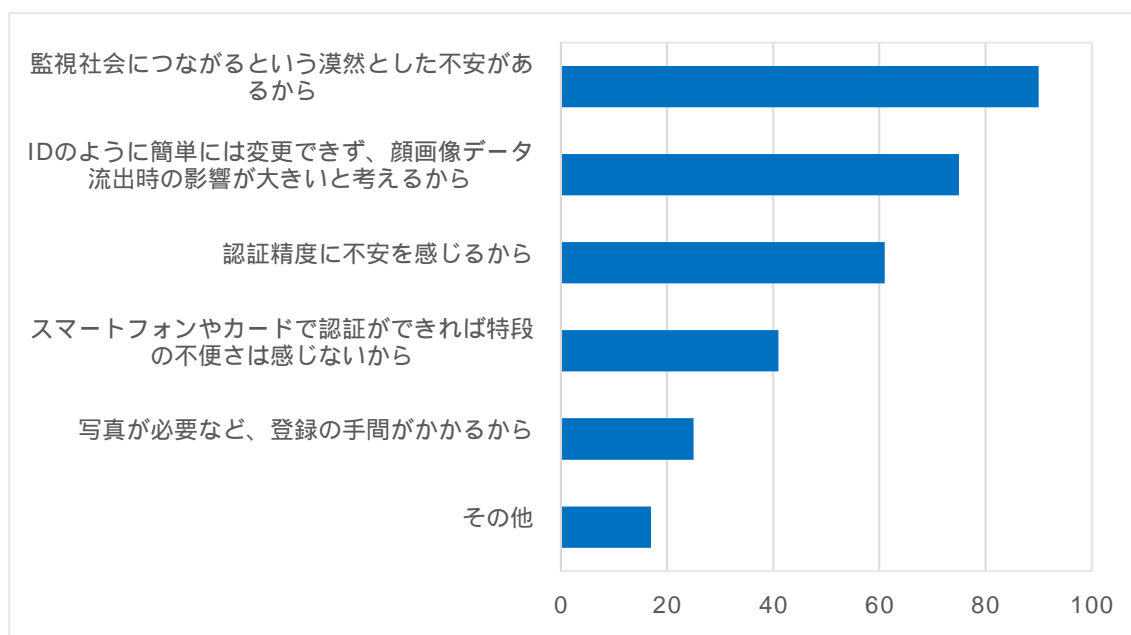
その他の意見として、犯罪抑止や子供の見守り、徘徊老人や迷子の搜索など、安心や安全につながる利用法への期待も挙げられた。

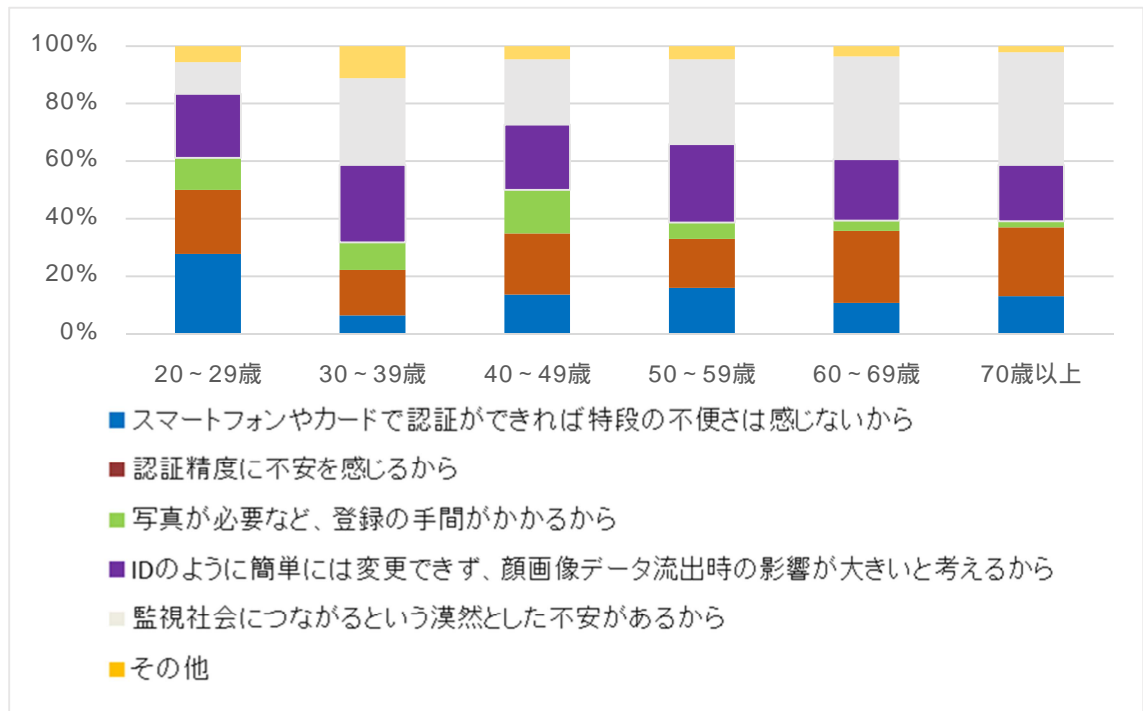
【問8】(顔認証技術を利用したくない理由)

(問6で「どちらかと言えば利用したくない」「利用したくない」と回答された方にお伺いします)

顔認証技術を利用したくない理由は何ですか(最大3つまで選択)。(n=138)

(人)





顔認証技術を使いたくない理由としては、「監視社会につながるのではないかと漠然とした不安」があるとの意見が最も多く、特に60～70代が多かった。

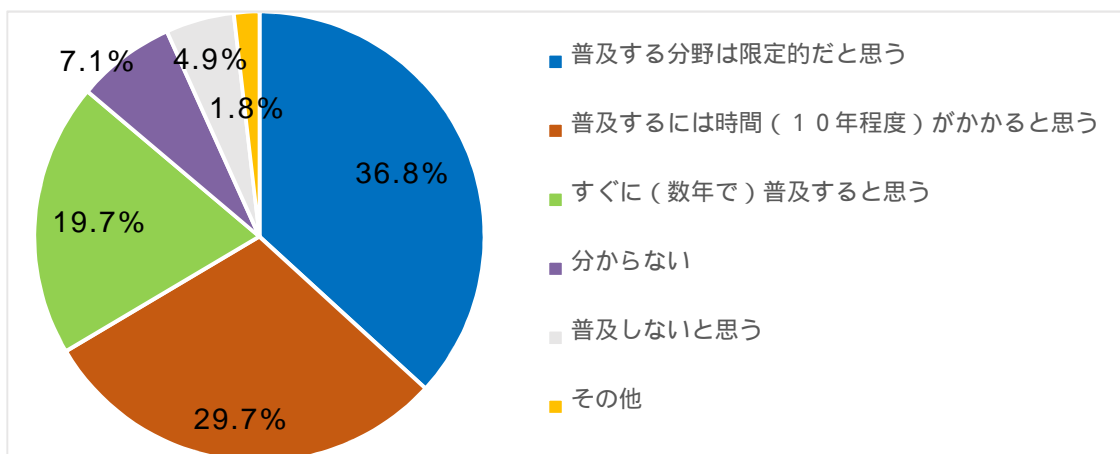
「IDのように簡単に変更できないため、データ流出時の影響が大きいと考える」方も多く、30代、50代で他の年代よりも割合が高かった。

一方、20代では、「スマートフォンやカードが使えるれば不便さは感じない」との意見が他の世代に比べ多く見られた。

その他の意見として挙げられた中でも、監視社会になるのではないかと意見、データ流出等への懸念が強い。また、災害時等の認証エラーに対する懸念や、初期投資コストに対する懸念が挙げられている。

【問 9】(顔認証技術の普及の期待)

顔認証技術は、どのくらいで普及すると思いますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。(n=549)



顔認証技術の普及性については、時間がかかる、分野限定的など、すぐに広く普及することは難しいであろうとの意見が大半を占めた。

その他の回答として、「諸外国の状況をみると技術的には問題がないが、監視社会への不安等、日本では国民感情の面で難しいのではないか。」「閉鎖空間であればすでに利用されているが、パブリックで利用していくにはまだ課題が多いのではないか。」といった声が聞かれた。

【問 10】(自由記述)

スマートシティや顔認証技術について、ご意見がありましたらお聞かせください。

防犯カメラの普及拡大による子供の見守りや犯罪の抑制など、安心・安全につながる期待が大きい一方、管理・監視社会につながるのではないかと懸念や、データの利用者への規制や罰則等の制度の充実を求める声も挙げられている。

データ流出(海外からのハッキングを含む)に対する不安感を述べる意見が多い。

「メリットとデメリットが正しく把握できていないのでわからない」といった声も聞かれており、スマートシティになるとどのような変化が起きるのか、住民目線でのメリット・デメリットを明確にして説明を行っていく必要がある。

「人のつながりが希薄になりそう」、「変化のスピードについていけない」といった懸念が聞かれる一方で、「顔認証にはまだまだ課題が多いが、交通量調査や河川の水位情報などのIoT化は積極的に進めてほしい」、「国際社会をリードするためにも、つくば市は積極的に導入すべき」といったスマートシティ推進に期待する声も聞かれている。

など、255件のご意見が寄せられました。

3 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和3年1月6日（水）～1月19日（火）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：810名（県内外在住者）

回収率：67.8%（549名）

回答者の属性：以下の通り。ただし、百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		549	100.0
地域別	県北	47	8.6
	県央	164	29.9
	鹿行	25	4.6
	県南	178	32.4
	県西	45	8.2
	県外	90	16.4
性別	男性	252	45.9
	女性	297	54.1
性・年齢別	16～19歳	5	0.9
	20～29歳	36	6.6
	30～39歳	99	18.0
	40～49歳	142	25.9
	50～59歳	128	23.3
	60～69歳	72	13.1
	70歳以上	67	12.1
職業別	自営業	54	9.8
	会社員	177	32.2
	団体職員	17	3.1
	公務員	22	4.0
	主婦・主夫	137	25.0
	学生	17	3.1
	無職	69	12.6
	その他	56	10.2

(2) 担当課

茨城県産業戦略部技術振興局科学技術振興課（研究開発推進グループ）

電話：029-301-2499 E-mail：kagaku02@pref.ibaraki.lg.jp